



平成 26 年度「篠ノ井西中学校 学校通信」

発行日 平成 26 年 12 月 9 日

第 35 号 (162 号) 校内版

長野市立篠ノ井西中学校

電話 (026) 292-0244

FAX (026) 292-7880

担当：教頭 中山

布施だより

《 「命」の学習 ～ 思春期の思い ～ 》

11 月 21 日に「命の学習講演会」が学年ごとに講師の先生をお呼びして開催されました。思春期の生徒諸君に「命」の学習を通して、自分と周囲とのつきあい方、心のこと、体のことを見つめる機会となりました。保健室の押鐘美幸先生のレポートです。

命の学習

「わかってくれない。」いろいろな生徒が口にしている、心にとめている言葉です。誰かわかって、誰か助けて、誰か認めて、誰か自分を見て、「誰か！！」そんな寂しくて不安で仕方がない心の叫びのように感じられます。

そんな生徒たちに、「一人じゃないよ。」「いつも誰かがあなたをみているよ。」「あなたがとても大事だよ。」という気持ちを届け、大切な自分を感じてもらいたい。そして、自信を持って、安心して素敵な大人になってもらいたいと私は思っています。

全校生徒が成長にあわせ、” ころ” や” からだ” について正しい知識を理解し、その知識を、自分の生活や生き方に生かして実感に変え、誰もが大切な自分を感じられるようになってほしいと願い、3 年間積み上げて、命の学習を行います。

今回の命の学習講演会では、専門家の方の知識と、思い、願いを伝えていただきました。この出会いから、生徒が学んだことは多かったようです。生徒の感じた思いをお伝えします。……

1 年生 〈いのちのお話〉

：厚生連篠ノ井総合病院助産師の下村民子さん、飯島彩織さん

1 講演会を通して分かったこと学んだこと

- ・子供を授かりたいと願っていても、流産や死産してしまう人を聞いて、少し悲しくなりました、受精卵がどんどん大きくなり、人間の形になって産まれてくるのは不思議でした、まだはじめの頃は丸い玉だったのに、日がたつにつれて人間の形になり、0.1～0.2 mm から 50 cm 近くにまで大きくなって産まれてくるのを見て、人間の力はすごいと思いました。
- ・3. 11 の日に産まれてきた小さな命。その時は、自分も妹がいて、まだ 1 歳で家は大丈夫かな？妹は大丈夫か心配でした。でも、その日に産まれた子供たちは、母親が一番不安だと思いました。地震が起きていの中で産まれてきて、母親の腹の中にいるときは、この子を守ってあげなくちゃという気持ちがあり、その気持ちをそばで守ってくれた助産師。その小さな命が産まれるまでの間、光の少ない中、よくがんば



ったと感じ、小さな命は、いろいろな人に支えてもらい、今現在あるんだという気持ちを学んだ。

2 自分や仲間、こころやからだについて大切にしたいこと

- ・産まれて来た命で十人十色なのに、とても人それぞれなのに、それを体のことで悪口をいったり、性格で悪口いうのは、とてもひどいと思う。命は大切。それを自分から死んでしまったりするのは絶対にいけないと思う。人が死んでいい気になる人なんかいない。それに、やること(経験)をして、もっと今の命があること大切さをもっともっと大事だと思いたい。

2年生〈「わたし」と「あなた」～思春期の心の中をのぞいてみよう～〉

：長野市保健所健康課犀南保健センター保健師 原山真理子さん

1 講演会を通して分かったこと学んだこと

- ・思春期の今は、誰もが性や自分と他人の関わりに悩むときだけど、それを乗り切るには、相談する。後先を考える。そして、一番大切な自分らしさを貫いていくことが重要で、恥ずかしい気持ちをもたず、自分らしい行動をしていきたいと思った。自分や周囲の人を守るためにも、個人情報などは気軽に発信しないように気をつけながら、個性を出すことも大切だと思った。
- ・男子の心と女子の心は中学生になって差が出てきて、気持ちや考え方が変わってくるので、しっかり相手のことを考えて、行動しなければならないということ学んだ。体は男でも心は女の人や、その逆である人も日本にはたくさんいるので、そのことを理解しながら、生活していかなければいけないということが分かった。また、SNS や出会い系サイトは危険なので、周りの人に相談しながら、注意して利用しなければならないことを学んだ。

2 やってみようと思ったこと

- ・前までは、自分がいらだっているときとか、人の意見をないがしろにしてしまうことが少しあったから、今からいつでも人を思いやるような言動に変えていきたいと思った。
- ・自分が正しいと思ったように行動していきたいし、自分の気持ちを逃げたいときでも、考えたり、悩んだりして、これから先のことについていろいろとやっていければなと思っています。



3年生〈性感染症・エイズ予防について〉

長野市保健所健康課課長補佐犀南保健センター所長補佐 保健師山崎まな美さん

1 講演会を通して分かったこと学んだこと

- ・病気の種類は意外とたくさんあって、簡単に感染してしまうと言うこと。またさらに、自覚症状がないということが怖かったです。知らないうちに感染しているかもしれないし、周りの人にもうつしているかもしれない、今の私にはまだ関係ないかもしれないけど、大人になれば「私は関係ない！！」なんて人ごとにはできない。だから、保健所とか産婦人科とかで定期検診を受けることが大切だと学んだ。

2 自分や仲間、心やからだについて大切にしたいこと

- ・「自分のからだを守れるのは自分だけ、当たり前なことだけど…」という検査を受けた人の言葉が心に残りまし

た、自分の体を大切にしたいです。

・自分を守るのは自分しかいないのだから、はっきりと嫌なことは嫌だと言わなければならないと思いました。自分と相手の違いを認め、相手の気持ちを考えることを大切にしていきたいです、また、束縛は対等な立場ではなくなってしまう。なので、そのようなことはせず、互いにわかり合うことも大切だと思いました。

「命」について言及するとき、中島みゆきさんの『誕生』の歌詞が思い返されます。『誕生』に寄せてのエピソードです。……

中島みゆきさんは、言葉を取りわけ大事にする人で、こんなことを言っています。「私の興味は、歌詞をどう伝えるかの一点に尽きる。私にとっての音楽とは、言葉の後ろのほうにあるもの。多分、言葉のために音楽をやっているんだと思う。」彼女が美しいメロディーや心弾むリズムではなく、言葉のために音楽を創り続けているのはお父さんの影響があったようです。

娘には優しくした父に、みゆきさんが厳しく叱られたのが小学校3年生の時でした。友達に対して相手を傷つける言葉を口走ったのです。その時、父はみゆきさんを心から叱ってくれ、こういう言葉で諭してくれました。～いったん口にしたら元には戻らない。言葉で人を斬ったらつける薬はない～そんなことがあって、みゆきさんは「言葉にはすごい力がある。だからこそ大切に使わなくてはいけないんだな」と幼心に深く刻みつけ、それを実行してきたということです。51歳の若さで亡くなった父から教えられた～人を斬ったらつける薬はない～という教を常に守り、言葉を大切に作詞作曲活動を今も続けられています。(大晦日の晩には「マッサン」の主題歌が聴かれますね。) 故に中島みゆきさんの歌には、伝えたい強いメッセージがあります。『誕生』もそのひとつです。

ひとりでも私は生きられるけど	でも誰かとならば人生ははるかに違う	強気で強気で生きてる人ほど
些細な寂しさでつまづくものよ	呼んでも呼んでも届かぬ恋でも	おなしい恋なんてある筈がないと言って
待っても待っても戻らぬ恋でも	無駄な月日なんてないと言ってよ	めぐり来る季節をかぞえながら
めぐり逢う命をかぞえながら	恐れながら憎みながら	いつか愛を知ってゆく
泣きながら生まれる子供のように	も一度生きるため泣いてきたのね	
Remember 生まれた時	だれでも言われた筈	耳をすまして思い出して
最初に聞いた Welcome	Remember 生まれたこと	Remember 出逢ったこと
Remember 一緒に生きてたこと	そして覚えていること	

《 全中スケート大会へ ～ 美術部諸君の応援フラッグ制作 ～ 》



新年1月31～2月3日まで、長野市Mウエーブで開催される第35回全国中学校スケート大会 ～スローガン<長野に刻むひとつの歴史 大きく羽ばたけ未来へ向かって>～ の会場に、掲げられる大会応援フラッグの制作を美術部1学年諸君が中心になって制作してくれています。市内全中学校で制作されたフラッグの一枚、一枚が全国から集まる選手へのエールになります。



美術部の皆さん、ありがとうございました。